

第2回 栗原市総合計画審議会 会議録

日 時 令和2年11月16日（月） 午後1時30分～午後3時

場 所 栗原市役所本庁舎 4階 委員会室

出席者 委員19名

鈴木康夫委員、中田千彦委員、吉田浩委員（オンライン参加）、
鈴木康則委員、千葉みどり委員、磯学委員、阿部智恵委員、
佐々木寿美子委員、佐藤則明委員、佐藤博昭委員、黒沢亮委員、
千葉節朗委員、松平きらら委員、渡邊登委員、佐藤浩喜委員、
菅原文彦委員、武田夏子委員、高橋幸代委員、三浦和栄委員

（事務局）

伊藤企画部長、鈴木企画部次長、佐藤企画課長、菅原企画課長補佐、
菅原企画政策係長、眞山主査、佐藤主査

1 任命書交付

人事異動等により新たに下記2名を委員に任命した。

- ・磯学委員（仙台銀行築館支店長）
- ・黒澤亮委員（栗原市PTA連合会）

2 開会

3 挨拶

○栗原市総合計画審議会 鈴木康夫会長

- ・第1回目の会議が1月末だったため、もはや10か月が経過した。その間新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない状況である。
- ・政府の経済財政諮問会議が何度か開催され、コロナ禍において国が直近で取り組むべきことや、中長期的に取り組むべきことを定めている。
- ・こういった国の方向性をしっかりと見据えながら、栗原市の方向性について皆様から建設的なご意見を伺うため、この審議会は極めて重要な会議である。

4 報告事項

- (1) 第2次栗原市総合計画後期基本計画策定方針について【報告資料1】
- (2) 第2次栗原市総合計画後期基本計画策定体制について【報告資料2・3】

(事務局説明)

(委員からの質問等なし)

5 協議事項

市民満足度調査（総合計画に関する市民アンケート）案について
(事務局説明)

(会長)

この件について何かご質問・ご意見はないか。

(委員)

アンケート調査票の問9と問10について、選択肢は同じであるのに、選択する数が問9は3つ、問10は1つと異なっている理由は何か。

(事務局)

問9「住み続けたいと思う理由」は、複数把握したいと考えている。

問10「市外へ転出したい理由」は、最大の理由や決定的な理由を尋ねたいと考えている。

(委員)

選択肢の項目が完全に同じであるのに、良い方は3つ選択させる一方で、悪い方は1つしか選択させないということは、何か意図的なものを感じる。

(事務局)

ご意見を踏まえて検討したい。

(委員)

アンケートの調査対象は18歳から79歳までの3,000人としているが、3,000人の内訳は、年齢構成によって差があるのか。結婚・出産・子育てに関するアンケートは18歳以上45歳以下の方を対象としているが、今後の将来を考える上で、結婚・出産の問題を取り上げているのに、アンケート調査の分母数としては少ないのではないか。

アンケートの設問数がすごく多い。読むだけで20分かかった。このアンケートを、受験や就職を控えた高校生が答えるのは大変。内容としては分かりやすくいいが、アンケート調査として答えるには少し分量が多すぎる。

結婚・出産・子育てに関するアンケートの中の、3つまで選択する設問の選

択肢に「特になし」は要らないのではないか。他にも言葉や表現がおかしいところが随所に見受けられるため、もう少し内容を精査してほしい。

(事務局)

対象者の年齢構成については、市の人口の年齢構成に応じて抽出するため、構成割合が多い年代は多く抽出され、少ない年代は少なく抽出される。

結婚・出産・子育てに関するアンケートの分母数については、令和2年4月30日現在の18歳から45歳までの人口16,230人に対して、回収率を35%とすると、18歳から45歳までの回収数が379となる。一般的に母集団が10,000人以上の場合は370人程度、100,000人以上の場合は383人程度のサンプルがあれば、プラスマイナス5%の誤差の範囲内でデータを得ることができるとされているため、このような設定としている。

(委員)

そうすると、調査対象者は高齢者の数が多くなるということか。

(事務局)

そのとおりとなる。

(委員)

栗原市の将来を5ヵ年、10ヵ年計画で考えていくときに、高齢者の方々に「将来どうしますか？」と問うアンケート調査を実施しようとしている、と解釈して差し支えないか。

(事務局)

アンケートはそのようなお願いの仕方になる。

また、先ほどご意見があった、アンケート調査票の選択肢の設定の仕方については、ご意見を踏まえて検討したい。

なお、全体的な設問の項目数については、前回アンケートの結果との比較が必要になることから、前回と同様の設問数としている。

(委員)

予想通りの回答である。それで結構である。

(会長)

私も同意見であるため、検討することとした事項については、いただいたご意見を踏まえて、是非前向きな検討をお願いしたい。

(委員)

冒頭にSDGsやSociety5.0に関する設問があるが、栗原市として、市民レベルでSDGsやSociety5.0についての理解を促すような取り組みは行っているのか。

(事務局)

SDGsについては、職員向け研修会の開催や他の研修への参加により理解を深める取り組みを行っている。

今後、市民向けの理解を深める取り組みも必要だと考えている。

(委員)

SDGsの概念を基本に掲げる中で、このアンケートの後半に結婚・出産・子育てに関する設問がある。SDGsの概念だと、『結婚』と『出産・子育て』は概念が違う。結婚は制度的・立場的なものであり、出産は女性が、子育ては性別に関わらず行うもの。そういう状況や環境を社会が醸成していく中で、このアンケートでは『結婚・出産・子育て』をひとつのパッケージとして捉える旧来の考え方になっている。

特に、結婚とは別に出産や子育ては存在しうる概念だが、そういった状況の中でこれらをパッケージにして、そこに絡めた設問により、栗原市における結婚・出産・子育てについて問うていくという態勢自体が、SDGsという言葉掲げている中で、少し馴染まないのではないかと。SDGsをきちんと追いかけていくと、『結婚』と『出産・子育て』は無関係であり、それを一緒にして考えることはない。

しかし、栗原市が結婚・出産・子育てをある種のパッケージとして捉えて、若い人たちにここでの生き方について確認していくということが前提だとすると、そのあたりの取り扱いは結構難しい。

そのあたりをどういう風にかみ砕いてこのアンケートを作ったのか、また、SDGsが基本になった瞬間に根底が変わるということも踏まえているのか確認したい。

(事務局)

現状では、今後職員の理解を深めながら市の各種計画にSDGsとの関連性を持たせていきたいと考えている。

結婚・出産・子育てに関するアンケートについては、SDGsとの関連はそこまで意識していなかったが、考え方としては、平成27年に実施したアンケート調査と比較ができるような内容で構成したことから、現状の案となっている。

る。

(委員)

前回のアンケート調査との連動性もあり、アンケート調査票24ページの間3や25ページの間7の項目は、市としては聞いておきたい項目だと思うが、こういうことを公的な立場が聞くこと自体がタブーとなっている。

社会情勢の中では、SDGsを掲げた一方で、「そのことは私たちはよく承知していません」というスタンスでこういった無神経な質問を投げかけてしまうということがどうなのかが問われる時代になりつつあるので、その点は十分にご注意いただきたい。

これはかなりプライバシーに関わることであり、性的多様性のことも含めてデリケートなことになりうるので、取り扱いについては庁内でも十分検討の上、どういう風に問いかけるのか、どういう風に調査を実施するのかを議論した方が良い。

(事務局)

承知した。ただいまのご意見を踏まえてよく検討させていただきたい。

(会長)

是非前向きな検討をお願いします。

(委員)

アンケート調査票1ページの間1について、選択肢が男女の2択しかないが、これだと答えられない方がいる可能性があるため、改善していただきたい。

(事務局)

選択肢を増やすことなどを検討する。

(委員)

結婚・出産・子育てに関するアンケート調査の対象を18歳以上としているが、女性は16歳から結婚することができるため、結婚はしているが、こうしたアンケートに参加できない方が出てくると思う。

また、例えば両親が他界した場合など様々な事情で子育てができず、親戚や祖父母が子育てしているケースもある。

「子育て」の意味が、このアンケートで見るととても小さなお子さんを対象にしているように思われる。

中学校を卒業後に社会人として勤めている方もいれば、高校3年生までを子

育てとして親が責任を持って育てている方もいるが、この「子育て」の線引きが、このアンケートの文章だけを見ると小さいお子さんを対象にしているように私には思える。子育てに関して質問するのであればもう少し柔軟に、多方面の考え方を取り入れるといいと思う。

(事務局)

結婚・出産・子育てに関するアンケートについては、前回の調査では40歳までを対象としていたが、今回は少し年齢層を広げている。

いただいたご意見を踏まえて検討させていただきたい。

(委員)

少子化対策に関するアンケートの内容は充実していると思う。

総合計画の基本方針の中に「高齢者が生きがいを持ち、互いに支え合うまち」というものがあるが、これは栗原市にとって非常に重要なことだと思う。

現在の生涯現役社会を踏まえると、「もっと仕事を続けたい」「退職後も別の仕事で社会に貢献したい」という気持ちを持っている方もおり、またそうしたことが求められている社会だと思うので、高齢者の就業の可能性について汲み取れるような項目があるといいと思う。

(事務局)

調査票12ページのNo. 22には「高齢者の社会参加への支援」という設問があるが、現時点ではこの項目で意見を拾いたいと考えている。

(委員)

前回調査の設問とのバランスがあると思うので、その中で働きたいという高齢者の声が拾えるのであれば良い。

(会長)

今回のアンケート調査は極めて大事。出されたアンケートをまとめて、それに基づいて後期の計画を作っていくということになる。

SDGsの時代になっているため、それを踏まえた栗原市の在り方を考え、栗原市から何かを発信していくというものを後期計画で作っていかなければならない。それをこのアンケート調査結果から導き出していかなければならないため、アンケートの設問は十分注意して作らなければならない。

SDGsとSociety5.0の質問があるが、何のためにこれを聞くのか。これを踏まえた未来づくりを進めるのであれば、そういう設問にすべきだと思う。

(委員)

学校では子どもたちの中にも、性別と心が一致していない子もいる。そういった中でも差別が生じないようにしている。

性別をあえて設問で盛り込んでも、答えられない人もいることから、性別の設問は要らないと思う。

(委員)

アンケート調査の設問項目が多いという意見があったが、提案として、若い人向けにウェブアンケートを実施してはどうか。それで回答率も上がると思うので是非検討をお願いしたい。

(事務局)

可能かどうかも含めて検討したい。

(会長)

先ほど説明があった策定スケジュールでは、12月中旬からアンケート集計を行い、1月中旬には集計・分析が終わって、第3回総合計画審議会に諮られることになっている。ここが正念場だと思う。未来を創るアンケート集計結果をしっかりと引き出す設問内容にしたい。

(委員)

アンケート調査票11ページについて、障害者や高齢者、介護が必要な方のことが書かれているが、ここに難病を抱えている方のことは入れないのか。難病指定を受けて長年治療を続けている方もいると思う。障害とは少し違うと思うので、そうした記述があると該当する方の意見が聞きやすいと思う。

(事務局)

アンケートの項目は、現行の総合計画に基づきこれまで実施してきた取り組みについて何うものとしているため、現状の記述となっているが、後期計画を策定する際には、今いただいたご意見をどこかに盛り込むことができればいいと考えているため、その時の協議の場で引き続きご意見をいただきたい。

(会長)

時間が限られているため、アンケートの修正は会長と事務局に一任していただきたいと思うがいかがか。

(全員了承)

(会長)

以上で市民満足度調査についての協議は終了する。

6 その他 次回開催予定

(事務局)

次回の開催予定は、令和3年1月下旬で調整したいと考えている。

(会長)

この場で日程を決めるのは難しい。

2つくらいの日程案を事務局で考え、委員に確認して出席率が高い日にすることは可能か。

(事務局)

了解した。

(会長)

2つくらい日程案を考え、本日の欠席者も含めて、事務局から日程調整の連絡をすることで進めたい。

ほかに意見等が無ければこれで終了とする。

7 閉会 (午後3時)